

令和6年度 江戸川区立平井南小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	体をきたえ 心をひらいて みずから学ぶ子 なかよく助け合う子 みらいへたくましく進む子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	児童・教職員・地域にとって行きがいのある学校 自ら学び、友達と仲よく、目標をもって粘り強く努力し、元気に生活しようとする児童 教育の専門職としての自信と誇りを持ち、熱意をもって職務や自己研さんに励み、児童・保護者・地域等から敬愛され信頼される教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞「共生社会の実現に向けた教育の推進」について、校内外の組織や関係諸機関等との連携や校内研究を核とした取組を充実させることができた。 「特色ある教育の展開」について、異学年集団活動の推進や充実を図ることで、自他を思いやる心を育成することができた。 ＜課題＞「学力の向上」について、基礎的・基本的な内容の定着に資する指導や教材等を含む教育環境等の整備の充実を推進していく。 「体力の向上」について、休み時間の時間帯を活用した「いきいきタイム」の活動内容の充実や評価方法の工夫などを推進していく。		

教育委員会 重点課題	＜取組項目＞・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた 改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・「江戸川っ子study week!」の取組を核とした基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての取組の推進 ・授業におけるICTの活用促進	・「東京ベシーック・ドリル『診断シート』」等を活用した基礎的・基本的な内容の定着度の把握を年2回実施し、平均正答率を前年度比10%以上向上させる。 ・教員対象の実施調査を年2回実施し、1日2単位時間以上授業でICTを活用している教員を80%以上にする。	A	B	・「東京ベシーック・ドリル『診断シート』」等を活用した基礎的・基本的な内容の定着度の把握では、学力の二極化傾向の解消など、個に応じた支援の充実に課題がある。 ・授業におけるICTの活用について、今後、児童による活用の更なる充実を目指すしていく。	B	・「学力向上アクションプラン」に基づく取組を核とした基礎・基本の確実な習得を目指す。 ・指導方法工夫改善授業を核とした児童一人一人の実態に応じた指導の充実を図る。 ・授業におけるICTの活用について、特に児童による活用の促進を図る。 ・上記手だてにより、TBD平均習得率7割を目指す。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書科推進研修の実施(年1回以上) ・「江戸川っ子 読書科コンクール」に向けた取組の推進 ・団体貸出による学級文庫の充実と授業への活用(月1回) ・巡回司書(隔週)とSSS(毎日)による蔵書管理や配架、図書室及び閲覧室の環境整備	・「読書科ノート」を活用した調べ学習等の取組を各学年年2回以上実施する。 ・児童一人当たりの年間平均図書貸出数を20冊以上にする。 ・「江戸川っ子 読書科コンクール」に向け、冬季休業期間に取組を設定するなど、図書を活用した学習に主体的に取組む素地を養う。	A	B	・読書科の充実図ため、区教育委員会指導主事を講師として招聘し、読書科推進研修を実施し、指導力の向上を図ることができた。 ・児童一人当たりの年間平均貸出冊数の数値目標を達成することができた。 ・図書を活用した学習に主体的に取り組む素地を養うための年間指導計画の充実・課題がある。	B	・「読み語り」の際などに、本が好きなお子さんが多いと感じている。 ・読書科の充実が読書を楽しむことにつながるものになるよう期待している。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・休み時間の時間帯を活用した「運動遊び」による体力及び運動意欲の向上	・毎月曜日の20分休みの時間帯を活用した学期ごとに設定する「運動遊び」(いきいきタイム)の実施(年30回程度) ・「運動遊び」充実のための校内研修会の実施(年3回程度) ・運動意欲向上のための評価基準及び方法の設定	・児童対象の意識調査を年2回実施し、体力の向上に関する質問項目での肯定的な回答の割合を80%以上にする。	A	B	・取組については計画どおり推進することができたものの、各種の体力に関する調査等では区の平均を下回するなど、体力向上に関する取組の更なる充実に課題がある。	B	・放課後等に近隣の公園で遊んでいる子どもたちの様子を見ていて、元気に遊んでいる子が同じ子ばかりであったり、座ってゲームなどをしてしている子が居たりするのが気になっている。体力の向上については学校だけで実現できるものではないと感じている。
	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副障交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援教育に関する内容の校内研究の実施(年5回以上)による理解と実践力の向上 ・特別支援教育コーディネーターの複数配置による対応組織の整備 ・エンカレッジルームや保健室を活用したやむを得ず教室に登校できない児童等の居場所の確保 ・各種便りの交換(月1回)及び、対象児童の実態や受け入れ条件等に応じた共同学習の検討 ・SC勤務日を活用した情報共有の機会の確保(年38回)	・教員対象の意識調査を年2回実施し、校内研究に対する満足度を80%以上にする。 ・保護者対象の意識調査を年2回実施し、教育相談に関する質問項目での肯定的な回答の割合を80%以上にする。	A	B	・校内研究を通じて特別支援教育に関する理解と実践力の向上を図ることができた。 ・エンカレッジルームや保健室を活用したやむを得ず教室に登校できない児童等の居場所の確保について、組織的な対応体制を整えることなどにより、どこにもつながりがもてていない児童を0にすることができた。 ・取組の状況等について、保護者や地域に向けた情報発信や啓発活動の充実が課題である。	A	・特別な配慮や支援を必要としているお子さんへの対応について、引き続き取り組んでいただきたい。 ・個人情報について配慮していただくことは大変重要だと考える。 ・校内の組織対応体制の整備による、エンカレッジルーム等の活用促進や誰一人取り残されない指導体制の充実を図る。 ・取組の状況等に関する情報発信や啓発活動等の取組について検討する。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hypeaer-QUの活用	・児童の問題行動等の未然防止や早期発見、対応方法の共有を図るための生活指導会議を開催(週1回) ・「ふれあい月間」の取組を核とした児童の問題行動等の未然防止、早期発見、組織的な早期対応 ・SSWの積極的活用による児童や保護者に寄り添った支援の充実 ・「hyper-QU」の調査結果の共有や分析に基づく指導等の充実	・保護者対象の意識調査を年2回実施し、児童の問題行動等への対応に関する質問項目での肯定的な回答の割合を80%以上にする。 ・いじめが認知された場合は、3か月以内の100%解消を目指す。	A	B	・児童の問題行動等に関する情報の共有を定期的に行うことで、未然防止や早期発見、対応方法にあたることができた。 ・いじめ対応については改善傾向を維持することができている。今後とも、児童一人一人に寄り添った対応を保護者と連携して行うことができるようにしていく。	B	・いじめ等の児童の問題行動等については、問題の原因に焦点を当てた支援や指導、家庭への働きかけが重要だと考える。 ・いじめがあった際には、関係した子どもたちの経過観察や継続的な指導が重要だと考える。
	＜自校(園)の取組の積極的な発信＞ ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・各学期中週1回以上「学校ホームページ」の更新を行い、情報発信の充実を図る。 ・必要な連絡や児童の様子等についてICTを積極的に活用し、情報の共有や教育活動への活用を図る。	・保護者対象の意識調査を年2回実施し、学校の情報発信に対する満足度を80%以上にする。	B	B	・「学校ホームページ」の更新について、月ごとの公開回数や頻度に差があるなど、計画的な情報発信に課題がある。 ・保護者連絡システムを活用した情報発信や共有の推進ができてきている。 ・一人1台端末を使った情報共有について学年間の差の解消に課題がある。	B	・「学校ホームページ」の更新を楽しみにしている。 学校の様子を知ることができるよう、内容や更新回数などの充実をお願いしたい。 ・「学校ホームページ」などだけでなく、紙で配る情報も重要ではないか。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校関係者評価委員(学校評議員)による参観機会等の確保や情報発信の充実に努め、適正で適切な評価を行う。 ・評価結果について「学校ホームページ」上に公開し、保護者や地域に開かれた学校運営の実現を図る。	・「運動会」・「文化的行事」・「学校公開」を活用した参観の機会を年6回程度設定する。 ・各学期中週1回以上「学校ホームページ」の更新を行い、情報発信の充実を図る。(再掲)	B	B	・保護者や地域に向けた参観の機会の確保については計画どおり実施することができた。今後、各参観の機会のアンケート結果等を踏まえた充実や改善を目指していく。 ・「学校ホームページ」の更新について、月ごとの公開回数や頻度に差があるなど、計画的な情報発信に課題がある。(再掲)	B	・参観の機会などについて、近隣の保育園や中学校とも情報共有等を充実させていくと良いのではないかと。 ・アンケート結果のみに捉われすぎずに「子どもたちのために」という視点で考えることも重要ではないか。
	心の教育の充実 ・異学年集団活動による自他を思いやる心の育成	・異学年集団による定期的な「ふれあい班活動」や年1回の全校遠足の実施	・保護者対象の意識調査を年2回実施し、異学年集団活動に対する満足度を80%以上にする。	A	B	・異学年集団による教育活動に関する取組については計画どおり実施することができた。今後、取組の状況等について、保護者や地域に向けた情報発信の充実が課題である。	A	・心の教育の充実や実践的態度の育成を目指し、挨拶や言葉遣いに関する取組について検討する。
特色ある教育の展開	連携・協働による教育の推進 ・「学校応援団」による「読み語り」や地域の人材や環境を活用した教育の推進	・朝の時間帯を活用した「読み語り」の実施(年10回) ・旧中川や地域の施設を活用した「地域を学ぶ・地域で学ぶ・地域と学ぶ」教育の推進	・保護者対象の意識調査を年2回実施し、連携・協働による教育の推進に対する満足度を80%以上にする。	A	B	・連携・協働による教育の推進に関する取組については計画どおり実施することができた。今後、取組の状況等について、保護者や地域に向けた情報発信や啓発活動の充実が課題である。 ・持続可能な連携・協働による教育の推進に向け、保護者や地域の方々の協力体制や「学校応援団」等のボランティアの人員確保が課題である。	A	・「学校応援団」の団員の高齢化が進んでおり、団員の募集や保護者ボランティア等の人員確保について危機感を感じている。 ・連携・協働による教育の推進について、校舎改築や校舎移転を視野に入れた計画を検討する。 ・持続可能な連携・協働による教育の推進に向け、保護者や地域の方々の協力体制や「学校応援団」等のボランティアの人員確保に取り組む。